

令和8年度 浅川中学校学校経営方針

[学校経営の基本方針]

日本国憲法、教育基本法をはじめとする関係法規や教育振興計画、学校教育指導指針、笛吹市学校教育ビジョンに基づいて、また、本校の教育環境や学校教育に求められている保護者や地域の願いに、社会が抱える今日的な課題等を踏まえて学校経営方針を策定した。

本校の教育目標は、境川中と八代中の合併以来、半世紀にわたって浅川中教育の根底をなすものとなってきた。平易な言葉の中に、学校教育の目標とする知徳体の育成が網羅されている。先人たちの知恵の結実であるこの「知と愛に満ちた健康でたくましい生徒の育成」を今年度も本校の学校教育目標とする。

I 学校教育目標

知と愛に満ちた健康でたくましい生徒の育成

(1) 「知に満ちた生徒」の育成

学習指導要領が標榜する「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、ICTの効果的な利活用をはじめとする一層の授業改善を推進し、適切な教育課程の編成と実施に努め、確かな学力を育成したい。

(2) 「愛（豊かな心）に満ちた生徒」の育成

道徳教育、人権教育を学校生活全般にわたって意図的・計画的に行う。また、不登校やいじめに関しては、学級経営の充実を基盤として、安心して生活できる環境をつくとともに、生徒一人ひとりに対応した組織的な支援を行う。

(3) 「健康でたくましい生徒」の育成

「健康」とは、病気でないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、社会的にもすべてが良い状態であることととらえる。その認識の上で、しなやかで挫けない精神と身体を備えている生徒を育成する。

II めざす生徒・学校・教師像

1. めざす生徒像

(1) 自ら学び・考え・判断し、主体的に行動できる生徒（確かな学力）

- 基礎的・基本的な知識や技能を身につけた生徒
- 思考力・判断力・表現力などの課題解決力を身につけた生徒
- 学習や課題に意欲的に取り組む生徒

(2) 豊かな人間性や社会性を身につけた生徒（豊かな心）

- ふるさとを愛し、相手を思いやる優しい心や豊かな感性を身につけた生徒
- 仲間とともに活動できる対人関係能力を身につけた生徒
- 規範意識を身につけたきまりを守る生徒

(3) 夢や希望をもち、健康でたくましい生徒（健やかな体）

- 夢や希望を持ち、粘り強く実現に取り組む生徒

- 基本的な生活習慣を身につけた生徒
- 健康や安全に気をつけて生活する生徒
- 諸活動を通して心身の向上に努める生徒

2. めざす学校像

- 生徒や職員が安心して活動できる学校
- 生徒や職員が生き生きと活動する学校
- 生徒に生きる力を育む学校
- 生徒・保護者・地域に信頼される学校

3. めざす職員像

- 生徒に対する愛情や思いやりをもった職員
- 職に対する使命感や誇り、情熱、向上心をもった職員
- 教育の専門家としての力量を身につけた職員
- 豊かな人間性や社会性など、総合的な人間力を身につけた職員
- 協同して生徒の教育にあたる職員

III 学校経営の柱と重点項目

1. 信頼される学校づくり

(1) 服務規律の確保

(2) 開かれた学校づくり

- ①保護者、地域との連携
- ②情報発信と分かりやすい説明

2. 安全対策・安全教育（安全対策と安全管理能力の育成）

(1) 安心・安全対策の充実

- ①施設・設備の日常点検活動の実施
- ②交通・防犯・防災への安全対策（交通安全対策、防犯・防災対策など）
- ③感染症、熱中症等の予防と早期対策

(2) 安心・安全教育の充実

- ①一人ひとりが大切にされる学級・学年づくり（生徒理解と心の居場所づくり）
- ②安全教育の充実（日常生活、交通安全、防犯・防災、情報教育など）
- ③SOSの出し方等、自分たちの命や心と体は自分たちで守ることの意識化

3. 生きる力を育む教育

(1) 確かな学力の育成（学習指導の推進）

(2) 豊かな心の育成（心の教育の推進）

(3) 健やかな体の育成（健康・体力づくりの推進）

(4) キャリア教育の推進

4. 保護者・地域との連携

(1) 保護者や地域への情報提供と連携

(2) 地域の教育力の活用

(3) 小中連携した教育の推進

5. 学校の教育力の向上

(1) 職員の資質向上・指導力向上

(2) 学校運営の充実

①チームとしての対応が可能な組織の構築と運営

②職員間の連携を基盤にした運営（報告・連絡・相談の徹底と迅速かつ誠実な対応）

③学校評価の活用推進

6. 日常の職務を行う中で本校職員が心がけること

(1) 組織的で自律した職員集団をつくる

・全職員が縦横の連携を図り、同じベクトルの向きで組織的な対応を行う。

・組織力の基盤は、自律した各職員の責任感と最善を尽くす力。

・常に率先垂範し、生徒たちに自ら範を示す。与えられた仕事に最善を尽くす。それが生徒たちに見せる率先垂範。

・同僚性を大切にしたい、協働的な教職員集団を創る。互いにいたわり支え合う集団。

→「報連相（確連報）をしっかりとる。対応の要は教頭。責任は校長。

(2) 人権意識を大切にしたい教育活動を行う

・生徒に対する人権意識を持って行うことを旨とし、生徒たち一人一人の人格を認める教育活動を行う。また、生徒たちに自己決定の機会を与える。

・生徒たちとの交流の場を大切にしたい、生徒たちの心を知ること努める。

・生徒たちが浅川中を居場所と感じ、仲間と共同体感覚を持ち、所属感を感じられる学校にする。職員も勤務したくなる学校にしていく（学校愛・組織愛）

→生徒たちが通いたくなる学校、行かないと損をすると感じる学校にするため魅力ある授業、教育活動を展開。

(3) 学年・学級経営に注力する

・生徒たちが、心穏やかで居心地の良い学級・学年集団を醸成し、「誰一人取り残さない」教育集団をつくる。

・1年勝負の気概を持って、3月のゴールを見据えての学年学級経営を行う。

・教師は授業が本分。学習規律を徹底し、進取の気性に富んだ授業改善を図り、生徒たちが「なりたいたい自分になろうとする、なりたいたい自分になれる」よう学習保証する。

・ICTを授業の中にうまく取り入れながら、協働的な学習の中で思考力、判断力、表現力を培えるよう、「少なく教えて豊かに学ぶ」授業づくりをめざす。

(4) こだわりを持って生徒指導を行う

- ・温かく、しなやかでしっとりとした生徒指導を旨とする。(厳しさを否定するものではない)
- ・共通認識を持ち、統一感ある取組を徹底して行う。
- ・「凡事徹底」当たり前のことをおろそかにせず、徹底してやる。
- ・「あいさつ・返事」「時間を守る」「話の聴き方」「整理整頓」→「時を守り 場を清め 礼を正す(時場礼)」
- ・「報連相(確連報)の徹底」と「さ(最悪想定)し(慎重)す(素早く)せ(誠意)そ(組織的)」

★今年度の新しい実行柱★

- ・【学校教育目標】 「知と愛に満ちた健康でたくましい生徒の育成」
- ・【経営の2本柱】 【今年度の重点目標】
 - ① 「主体性」・・・自ら学び、自らを変える力
 - ② 「当事者性」・・・仲間とともに課題に向き合い、社会に係わる力
- ・【具現化4つの柱】

(1) 自己調整力・・・自己を整える、自己決定力

(主体性を行動化する力:目標設定・計画・実行・振り返り、学習や生活を自分で回していく力)

(2) 探究表現力・・・考え抜き、伝える、論理的思考

(主体性を深め形にする力:課題設定・情報吟味・構造化・発信、浅川中らしい学びの力)

(3) 協働対話力・・・ともに創る、コミュニケーション力、協働力、ソーシャルスキル

(当事者性を行動化する力:傾聴・要約・論拠・合意形成、学級活動、委員会等をよりよいものにしていく対話の力)

(4) レジリエンス力(やり抜く力)・・・忍耐力、継続力、克己心

(当事者性を継続へと結びつける力:継続・適応・セルフケア、困難に直面したとき、工夫して再チャレンジする。)

位置づけ

「学力」そのものは学校目標の【確かな学力】に明確に位置づぐため、上記(1)～(4)は学力を伸ばすための働かせ方として設定。

これにより【知＝主体性＝(1)(2)】【徳＝当事者性＝(3)】【体＝(4)】

○**主体性とは**・・・自分の頭で考え、判断し、行動すること

先行き不透明な VUCA の時代、正解のない時代に求められている力

○**当事者性とは**・・・集団や社会で生きる中で起きたトラブルを自分で解決しようとする力

自分たちで解決していく経験を通して当事者性が育まれ、他者を尊重しながら対話をし、確かな社会性を獲得していく

*自主性とは自ら進んで行動すること。先生や保護者が期待すること、または組織が期待することを自ら進んでやれる子供を今までは育成してきた。

< 「生徒が創る学び」を支える基盤づくり >

[自己存在感]・・・自分が一人の人間として大切にされていると感じる・自己肯定感が高まる

[共感的人間関係]・・・失敗を恐れない・できないことや間違いを笑わない・なぜそう思ったのか、みんなで考える（学級の雰囲気づくり）

[自己決定の場]・・・自分の意見を述べる（伝わる言葉で）・対話や議論をする・協力し合う・磨き合う場の設定

[安全・安心な風土]・・・「わからない」「できない」と言える学級づくり・「絆づくり」と「居場所づくり」に努める

< 「教職員としてのこころがけ」 >

- ・「教員が幸せでない学校は、生徒も幸せにならない」
- ・前例踏襲ではなく、常に検証・改善・プラスワン思考で
- ・情報共有と組織対応（報・連・相・調（聴）理） スピードは誠意
- ・しあわせ運動 「し」姿勢 「あ」挨拶 「わ」忘れ物 「せ」清掃

- ・ケアの3D「どうしたの？（傾聴）」「どうしたいの？（自己決定を促す）」
「（先生は）どうすればいい？（支援）」
- ・コンプライアンス意識とマナーの向上
- ・「教えすぎ」は生徒の芽を摘む・・・生徒の可能性を信じて待ち、生徒の伴走者として指導する姿勢 Teaching から Coaching へ
- ・学校はトライ＆エラーの実践の場・・・失敗から、学ぶ
- ・「やってみたい」という好奇心の喚起を

★教師の願い★

- 教師は親や、地域や社会と一緒に生徒を支えることを願っています。
 - ・教師は生徒の生き方のすべてを担うことはできない。生徒の発達段階に合わせて、その成長を支援している。
- 教師は信じる気持ちを大切にすることを願っています。
 - ・教師は生徒を管理し、コントロール下に置くことを望んでいません。教師にとって生徒とぶつかることはとてもつらいことです。学校には相手を信じる気持ちがあふれる穏やかな環境がとても必要です。
- 教師は、生徒の未来を描くために、社会とつながる学びを築くことを願っています。
 - ・これからの正解のない時代を生徒たちが生き抜いていくためには、自分で考がえて、行動できる力が必要になります。学校の学びは、社会とつながるリアルなものでなければいけません。
- 教師は、互いの能力を認め合いながら補い合って仕事をするを願っています。
 - ・教師は何でもできる完璧な存在ではありません。できないこともたくさんあります。互いの能力を認め合い、各自が自分の強みや好きなことを活かして補い合って仕事をする。

Searching for the Better Future!